

第2回 岡崎市緑の基本計画策定委員会 議事録

日 時：令和元年7月30日（火） 9時30分～17時00分

場 所：岡崎市内一円

出席者：

【検討委員】

今西委員長、松本副委員長、高取委員、近藤委員、中川委員

オブザーバー参加：岩瀬氏、三矢氏

【事務局】

靱井都市整備部長

公園緑地課：横山課長、高橋副課長、河合主任主査、高橋主事

(株)エイト日本技術開発：村山、北畠

議事内容は以下のとおり。

1 開会

挨拶・資料確認（事務局）

2 内容

岡崎市の緑の現状について

（1）現場視察

明代橋公園、伊賀公園、境公園、井田町線、北斗台2号線、奥殿陣屋、矢作公園、ひそこ神社こども広場、矢作児童遊園、岡崎公園、桜城橋、籠田公園

【視察場所】

伊賀公園

三矢氏：

- ・公園愛護運営会の立ち上げに係る中で課題と感じた点、解決につなげる手法について述べる。
- ・現行の愛護会の大部分は高齢者が主体となった地縁組織で構成されており、より活動内容が増える愛護運営会への意向は二の足を踏む場合が多い。（そもそも愛護会の維持すらままならない場合がある）
- ・解決策として、地縁組織から離れて福祉関係（作業所など）とのマッチングに現在取り組んでおり、実際に形になりつつある箇所がある。福祉関係は地域とのつながりを強く望む声があり、そういった例はほかでも探せると考えている。

- ・街区レベルにおいて愛護運営会を結成し、公園を地域で活用してもらおうとする場合、意外とライバルになるのが寺社仏閣。地域の集まりやお祭りなどは神社やお寺で行っている場合が非常に多い。
- ・民間企業などの参入については、可能な場所（商売が成り立つ場所）とそうでない場所（立地に恵まれない場所）が必ずあり、そこは切り分けて考える必要がある。

高取委員：

- ・子育て関係で、公園を使いたい保育園や教育関係の団体などとネットワークを作っていくことも考えられる。

【視察場所】

街路樹（井田町線）

今西委員長：

- ・過年度の道路緑化技術基準改訂内容にも留意すること。
- ・市は独自の緑化基準をきちんと作ることを考えていくべき。巨木化による根上、倒木などのリスクは当然想定されるべきだが、単純な撤去につなげるのではなく、巨木化したら更新していく考え方も必要。
- ・少なくとも市街化区域内においてはもう一步の重点化が必要。街路樹が厳しければ、接道緑化を進めていくなどの方法もある。
- ・なぜ緑化が必要か、グリーンインフラの概念なども含め、市としての考え方をきちんと整理して必然性を作っていないと緑は維持できない。

（２）意見交換会

今西委員長：

- ・北東街区開発等で緑化率などを独自に設定、民間事業者への要求などは実施しているか。
- 割増等は実施していないはずだが確認する。（市）

今西委員長：

- ・今回の視察の全体として、資料を含めて防災、農の緑といった面の位置づけ、視点が不足していると感じている。

中川委員：

- ・籠田公園は道の駅のような印象がある。伊賀公園は緑も多く、地元に愛されている感じ

があつて非常に良かったと思う。こういった公園のバリエーションの多さは岡崎の魅力の一つで、維持していくべき。

- ・籠田公園の維持管理は愛護会、愛護運営会が行っているのか
→籠田公園に関しては市の重点事業の一つということもあり、レベルの高い管理を維持していくために現在は業者が行っている。

近藤委員：

- ・今回の視察全体を俯瞰すると、岡崎は公園も自然林も非常に多く、全体として緑豊かな自治体だと実感できる。そういった点をシンプルにPRしていくことも必要ではないか。
- ・公園の運営・利活用に関する視点と別途に、自然環境としての公園、グリーンインフラとしての公園の位置づけを明確にしていく必要がある。
- ・緑陰、雨水貯留、CO₂吸収など、緑が有する機能を十分に発揮できる質の高い緑を維持していく必要がある。
- ・短期ではなく長期的な視点からの発想が必要。

松本副委員長：

- ・都市の中の生態系サービス、生物多様性といった視点を持って計画策定にあたるべき。

3 事務連絡

今後のスケジュールについて（事務局）

4 閉会

挨拶（事務局）

以上